

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	せんだいメディアテーク
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <p>平成30年度 374,387人 令和元年度 320,080人 令和2年度 74,451人（前年度比23.3%）</p> <p>《事業》</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。</p>
5 収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 592,258千円 (591,473千円)</p> <p>・ その他市が負担した費用 11,105千円 (50,388千円)</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 26,205千円 (60,530千円)</p> <p>・ その他収入 1,457千円 (2,575千円)</p>
6 利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>令和2年12月、施設利用者アンケートを実施した。</p>

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	職員が施設の設置目的を理解していることで、施設運営や事業実施に活かされており、市民活動や外部機関と連携した事業を行うほか、定禅寺通りに面した立地条件を活かし、市の事業をはじめ施設周辺で実施される文化活動への協力が行われている点も評価できる。	27/27
II 施設の運営管理体制	災害発生時の誘導體制や、施設内で事故が発生した場合の連絡体制が明確になっており評価できる。個人情報保護・情報セキュリティ・事故対応のための研修など、年間を通じて、各種研修を実施し、施設の運営管理を適切に行えるよう努力している。また、システム担当者を複数人配置し、セキュリティ対策を実施している点や、設備、清掃等委託業者とミーティングを重ね、情報共有、改善対応を行っている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	施設の保守点検や清掃などが適切に行われており、利用者が常に安全に利用できる状態を保っている。警備員の巡回も適切に行われており、利用者へ安全で安心感のある環境を提供している。空調設備の使用実績の分析、天候、施設の使用状況を基にした運転方法の検討、実施を継続して行った。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症防止のため、外気導入による換気が推奨される中、前年度実績から－2%（電気）、－1%（ガス）の目標を達成することができたことは特に評価に値する。	25/24
IV サービスの質の向上	施設利用者が使いやすいように、窓口やHPでの情報提供方法に工夫をしている。利用者からの意見やアンケート結果は、職員が情報を共有し改善に努めている。施設特性上見学者の多い施設であるため、多言語に対応できるよう職員を配置するほか、幅広い層に向けたパンフレットを作成している。また、施設の利用の状況に応じた感染防止策チェックリストを早急に作成し、感染拡大防止に努めたことは特に評価できる。	29/28
V 施設固有の基準	施設貸出や使用料徴収などの管理業務は適切に行われている。各種講座、市民等との協働事業を実施し、市民への生涯学習活動への支援が適切に行われている。事業実施にあたっては、市民が参加しやすい工夫がなされているほか、関係団体と良好な関係を築きながら行っている点が評価できる。	26/26

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》

施設の管理業務にあたっては、仙台市と協議を行いながら条例、協定書等に基づき適切に行い、費用の抑制にも努めた。施設の貸出し及び施設使用料徴収業務についても、条例、協定書に基づき適切に行った。また、賃貸借について複数年契約や再リースを行うことで費用の抑制に努めた。個人情報保護、情報セキュリティについては、全職員対象の研修等により対策を講じた。

施設維持保全については、耐用年数を超えた設備や経年劣化した設備の修繕を主として実施した。また、災害発生時の対応に関して、4権原者による共同防火管理体制を敷き、年2回の訓練を実施した。なお、新型コロナウイルス対策として、仙台市のガイドラインに基づき、職員や警備・清掃・設備をはじめとする委託業者と連携し、来館者が安心・安全に利用いただけるよう、感染拡大防止の運営に努めた。

映像音響ライブラリーでは、利用者の問い合わせに的確で丁寧な対応に努め、資料貸出やレファレンス、ボランティアと連携した障がい者向けサービスなどライブラリー業務事業や震災関連の映像などを含む様々な協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、s m tコレクションとして公開し提供した。

自主事業については、制作した映像音響資料をオンライン公開するチャンネル「せんだいメディアテーク・オンライン」の開始、せんだい・アート・ノード・プロジェクトにおけるオンライン企画「おうちで雑がみ部」「TALK」など、コロナ禍に対応した事業を展開した。また、開館20年の歩みを年表や資料で紹介する展示「せんだいメディアテーククロノロジー2001-2021」や、東日本大震災から10年となる「3がつ11にちをわすれないためにセンター」における、資料カタログの発行や展示の実施など、市民協働による事業の歴史が一望できるように努めた。

《施設設置者（仙台市）による評価》

せんだいメディアテークは、市民図書館との複合施設ということもあり、多くの方々に利用される施設であるが、令和2年度は、新型コロナウイルス対策として臨時休館などの影響はあったものの、施設の利用状況に応じた感染防止チェックリストを早急に作成し、感染拡大防止に努めた点がとりわけ評価できる。また、図書館の事業に加え、定禅寺通りに関する各種事業等への連携についても、良好な協力体制が整えられている。貸出施設においては、公平な施設使用許可の取扱や利用者に対する適切な支援を行うほか、施設使用時のきめ細かいアドバイスなどにより、当該施設が市民の生涯学習活動の場として支持されているものと考えられる。また、ギャラリーについては、多くの市民に利用いただけるよう、抽選後の調整を丁寧に行い、利用促進・利用率向上に努めている。とりわけ、昨年度は1年間を通して新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、円滑に施設運営を行ったことも評価すべき点である。

施設の老朽化が進み、設備の故障等緊急に対応を要する場合も増えているが、都度迅速に対応し、利用者への影響を最小限に抑えることができている。加えて、省エネルギーに関する取り組みや、各種設備の更新方法も工夫することで、経費削減ができており、高く評価できる。

活動支援においては、他施設にはない専門性を活かして、本市他部局や大学、NPOなどの団体と連携・協力しており、本市における生涯学習・文化芸術支援の拠点としての役割を担っているものである。

仙台・宮城ミュージアムアライアンスにおける市内博物館施設間連携を促進したほか、「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」「3がつ11にちをわすれないためにセンター」等の事業を継続・発展させながら実施してきた点が評価できる。特に震災から10年の節目に開始した記録展示「星空と路」と開館20年の歩みを年表や資料で紹介する展示「せんだいメディアテーククロノロジー2001-2021」は大いに好評を博したものと評価できる。

以上、せんだいメディアテークの管理運営を担う当該財団による事業運営は、これまでの運営実績により蓄積された高度な専門性と知識、外部協力者やボランティア活動との良好な関係に基づき、多様な市民の生涯学習活動における要望に適切に対応し積極的にサービス向上に取り組むなど、施設設置目的に沿った管理運営を実施しているものと大いに評価できる。

総合評価

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課